

あか

たすき

紅い禪展

世界遺産登録
3周年記念

平成29年7月1日(土)～10月22日(日)

【場所】富岡製糸場東置繭所内

【料金】無料(別途、富岡製糸場入場料が必要)



関連イベント

○トークショー及びミニコンサート
【日時】9月23日(土)午前11時
【場所】富岡倉庫
【定員】200名

○握手会及びサイン会
【日時】9月23日(土)午後1時
【場所】富岡製糸場東置繭所

【出演者】
水島 優(横田英役)
吉本 実憂(河原鶴役)

*応募方法は広報とみおか8月号及び
富岡市HPにてお知らせいたします。
問い合わせ先: 富岡製糸場戦略課
TEL 0274-64-0005



平成29年10月7日(土)劇場公開!
公開劇場: イオーネスマ高崎
ユナイテッドシネマ前橋

明治維新、日本の大転換期—

若き女性たちの活躍が、産業のあらたな扉をひらいた
知られざる感動の物語

映画「紅い櫻」公開に伴い、関連する企画展を開催します。

映画「紅い櫻」あらすじ

2014年、世界遺産に登録された「富岡製糸場と絹産業遺産群」。それは、かつて日本人とフランス人の女性がともに、時代を切り開いた証です。明治初期、日本の近代化を大きく牽引した輸出品は重厚な「軍艦」ではなく、しなやかな「絹」でした。その生産を支えていたのは、名もなき女性たちの手であったことをご存知でしょうか。故郷を離れ、新しい日本のために糸をひき続けた若い工女たちと、フランスから、製糸業を通して日本の近代化に尽力した、製糸場の首長ポール・ブリュナと、エミリ夫人、そして厳しくも温かいフランス人女性教師。彼女らによって、日本に新たな産業の風が吹き込まれたのです。工女たちが、それぞれの不安や葛藤を抱えながらも、次第に身分や国境を超えて、近代化という扉を自ら開いた先で手にしたものとは？そして「生糸の神様」と呼ばれたブリュナが日本に残したものとは……？ 横田英の手記をもとに紐解いていきます。

展示内容

- ・紅い櫻看板パネル
- ・出演者の写真パネル
- ・富岡製糸場正門のイミテーション
- ・映画予告編の放映
- ・メイキング写真
- ・撮影で使用された衣装やセット
- ・撮影で使用された明治期のピアノ
- ・地元パネルコーナー
- ・酒井登巳子氏による花まゆ作品
- ・酒井登巳子氏による花まゆ作品 (BGM)

